



## 結婚シーズン特集

親はなやみの結婚式

## 結納金の最低は一万圓

花嫁仕度のお値段などあれこれ調べ

結婚シーズンを迎えた。娘三人持てば六千円の灰まきなくなると吉ことわざの通り、結婚披露宴があるものとされ、戦後結婚をうるさい神前式のほか、最近ではだんだん火となり結婚式の様式も戦前と上廻る派手模様になつてきた。曾の大農作で一握千円を擴んだ農家などでは、花嫁仕度一人廿五萬円もかかる。

ところ、サラリーマン族によつては夢のようなら豪勢振りである。福島民報社では、大農作の収穫期を祝福しミス農村へ気球祭で、お嫁さんへのタキウチの禮のほか、衣装披露は金のかかるものとされ、戦後結婚をうるさい神前式のほか、最近ではだんだん火となり結婚式の様式も戦前と上廻る派手模様になつてきた。曾の大農作で一握千円を擴んだ農家などでは、花嫁仕度一人廿五萬円もかかる。

花嫁仕度  
結納金  
一萬円以下というのばかり。一方では上の部といふより、花嫁仕度は、戦前ならば花嫁の洋服のほか、タブー、内興、鏡台、下駄箱、タチ板、タライ、ハリ板などが用意され、タンスの中には外出着が入れられた経験のものが、最近の傾向としてミニ、ス、衣類、冷蔵庫まで持つていく氣分である。この分でゆくと電気暖機もあらかじめ知らない。

△衣裳、揃い萬円、八万円、八たん、夫の芦前、ベビータンス、三面鏡を拂つてくわうになつた。およづの豪勢になつて洋服タンス、衣類、冷蔵庫まで持つていく

花嫁仕度のほか、花嫁の洋服

眼鏡、タブー、内興、鏡台、下駄箱、タチ板、タライ、ハリ板二千円、芦前八千円、マジン

△五百円以下、三千円以下

△五百円以下、三千円以下